

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2017年度（前期）指定公募

「地元医師会、行政を交えた顔の見える多職種連携研修会への助成」

完了報告書

「美浜区連携の会」

申請者：清水直美

所属機関：千葉市あんしんケアセンター磯辺

提出年月日：平成30年8月6日

1. 開催概要

(1) 「警察との連携を図る」

演者：千葉西警察署 生活安全課

平成 29 年 8 月 25 日（金）18：30～20：30

参加者数 56 名

医師 2 名 歯科医師 1 名 PT/OT/ST 2 名 看護師 4 名 薬剤師 1 名
社会福祉士/MSW 3 名 ケアマネジャー 20 名 生活相談員/介護職員 6 名
生活支援コーディネーター 2 名 社協 1 名 行政職 4 名 その他 10 名

【ねらい】

警察署職員が経験された高齢者が関わる事例で、地域の人々と連携を図りたいと思われたことや考えて欲しいことを発表してもらう。参加者が各々の立場で何ができるか検討する。市民の安全の確保と限られた資源を有効に使うことについての啓発となる。



グループディスカッションの内容

- ・ 認知症や精神疾患の方の対応や、困難と感ずることが多くの話題であった。
- ・ 保護をした後の実際を、参加者は知ることができ、警察が対応に苦慮していることを改めて実感していた。
- ・ 個々の対応について、ケアマネジャーから活発な意見が出て、警察と具体的な意見交換ができた。
- ・ 免許の返納については、警察・参加者双方ともに苦勞しており、具体的な解決策は出ないものの現状の共有ができた。

(2) 事例検討「認知機能が低下してきた独居の高齢者をどう支援しますか」

事例提供者：高洲訪問クリニック 院長 橋詰史郎先生

アミカ稲毛介護センター ケアマネジャー 石井ゆりかさん

平成 29 年 10 月 20 日（金）18：30～20：30

参加者数 46 名

医師 3 名 歯科医師/歯科衛生士 4 名 PT/OT/ST 5 名 看護師 5 名

薬剤師 3 名 ケアマネジャー 8 名 介護職 5 名 行政職/地域包括 5 名

生活支援コーディネーター 1 名 ソーシャルワーカー 1 名 その他 6 名

【ねらい】

ケアマネジャーから事例提出。グループワークで検討を行う。

それぞれの職種を理解し、類似事例においてスムーズな連携が図れることが期待される。



参加者の声（抜粋）

- ・ 他の職種の方とお話が出来て良かったです。認知症の方の口腔ケアについては、最近とても話題になっています。
- ・ 多職種の方々と意見が聞けて非常に良かったです。今後の医療、介護を支えていく連携を大切にしていきたい。
- ・ グループワークを通して、コミュニケーションを取ることができました。
- ・ 多職種の方々と話す機会が普段ないので、大変勉強になりました。
- ・ 今回はディスカッションの時間が長かったので、多職種で様々な意見を出し合うことができ、有意義でした。
- ・ 色々な職種の方のスキルアップになると思いました。顔見知ができました。
- ・ 以前アンケートにて「連携を取れるような方法を」とお願いしまして、おかげさまで名刺交換もでき、横のつながりが増えました。

(3) 「低栄養リスクがある方へのアプローチ

～在宅でのチーム結成の課題」終了後、意見交換会

発表者 歯科医師 坂口 豊先生

(坂口歯科医院)

理学療法士 大島 慶巳さん

(セントケア訪問看護ステーション美浜)

管理栄養士 鈴木 望さん

(セイワ美浜)

言語聴覚士 竹内 あすかさん

(リハビリ訪問看護スマイルステーション)

平成 29 年 12 月 18 日 (月) 18:30～20:30

参加者数 48 名

医師 5 名 歯科医師/歯科衛生士 3 名 看護師/保健師 5 名 セラピスト 4 名 薬剤師 1 名 管理栄養士 3 名 ケアマネジャー/MSW 15 名 介護職 4 名 行政 2 名
その他 6 名

【ねらい】

低栄養のリスクがある方へ、歯科医師、理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士から、一つの事例をもとに、それぞれの見解を発言いただき、多職種の視点を知る。

地域で利用できる資源や、連携を考えることができる。



参加者の声（抜粋）

- ・ 歯科、リハビリテーション、管理栄養士など連携の仕方がわかった。
- ・ 医師として、栄養管理は学んできたのだが、実際にはよく理解できていないというのが現状だった。専門職と連携を取ることの大事さがわかった。
- ・ 自分が担当するケースでも、思い当たることがあった。誰に相談したらいいのか、わかって良かった。
- ・ 意見交換会で、気楽に話ができ良かった。詳しく聞くことができた。
- ・ 実際のケースに活かせると思えた。
- ・ それぞれの評価がわかり、良かった。

(4) 「消防署との連携を図る」

演者 千葉市美浜消防署

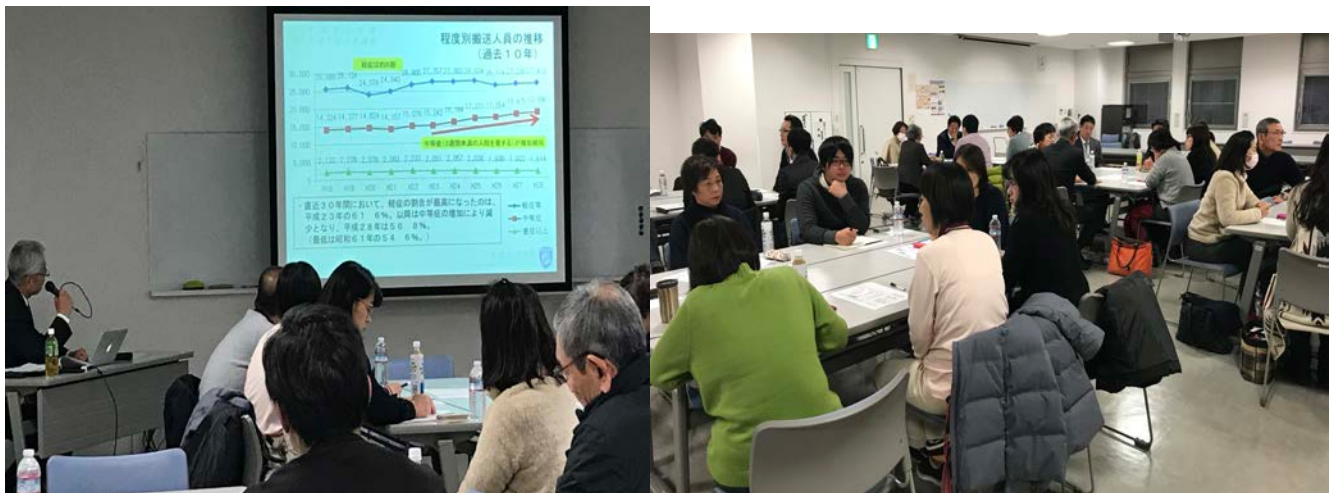
平成 29 年 2 月 26 日 (月) 18:30～20:30

参加者数 41 名

医師 3 名 歯科医師/歯科衛生士 2 名 看護師 5 名 セラピスト 5 名 薬剤師 2 名
ケアマネジャー/MSW13 名 介護職 4 名 行政 3 名 その他 4 名

【ねらい】

消防署職員から、千葉市美浜区の現状や苦慮されたこととお話ししていただき、連携を図れることなどを、各々の立場で考える。



参加者の声 (抜粋)

- ・ 救急隊の現実がわかった。
- ・ 安心カード (千葉市の情報カード) の知識、救急車を呼ぶ際の手順など知ることができた。
- ・ 救急収容困難事例の実態と、キーパーソン確保の重要性、医療機関からの処置困難事例が多いことが印象的でした。
- ・ 安心カードの活用と配布場所の設置行い、入手しやすいようにしてもらいたい。
- ・ 安心カードが市民に広まると良いと思った。お薬手帳が、これから情報を共有するうえで、大切になっていくことがわかりました。
- ・ 安心カードや shachi (千葉大: 患者情報システム) についての関心の声が多くあった。
- ・ 安心カードなどの普及についての声

(5) 「地域における食支援」

講師 地域栄養ケア PEACHI 厚木

代表 江頭文江氏

(摂食・嚥下アドバイザー 食育アドバイザー)

平成 30 年 4 月 19 日 (木) 18:30~20:30

参加者数 48 名

医師 4 名 歯科医師 1 名 看護師 11 名 薬剤師 6 名 セラピスト 3 名

ケアマネジャー/MSW12 名 介護職 1 名 管理栄養士/栄養士 5 名

行政 2 名 その他 3 名

【ねらい】

管理栄養士の仕事を理解する。栄養管理についての知識を得るとともに、連携を図るポイントの理解が期待される。

参加者の声 (抜粋)

- ・ 食の大切さを実感しました。当院緩和ケアチームの管理栄養士と協力して、早い気づきに留意したいと思いました。
- ・ 知られざる栄養士さんの世界を知ることができ、大変勉強になりました。
- ・ テンポよく、面白く聞かせてもらいました。私の 13 歳上の姉は、Dr から、もうダメかもと言われた。病院食はマズイと言って食べなくなったので、何でも好きなものを食べさせて良いとの許可が出た。3 日ほど、絶食した(胃に傷があり、食べると出血するリスクがあったので)。その後、ゆで玉子が、プリンが、甘いパンが・・・と食欲が出て、退院の可能性まで出てきました。食は命(口から食べる)と思う、今日この頃です。管理栄養士さんの仕事はすごい広いと思いました。管理栄養士さんまでつなげる動きが大切です。(ケアマネです)
- ・ 初めて参加しました。いつも入院中のことばかり考えていて、退院してからのフォローまでは中々難しいと思っていました。1つの施設では難しくても、地域で連携して、地域の人々が健康で過ごせると良いなと改めて思いました。お話を聞いて、とても刺激を受けました。ありがとうございました。
- ・ 初めて参加しました。病院看護師です。在宅でもかなり専門的な学習をしており、自分達も今以上に頑張らなくてはいけないと感じました。共通言語は大切だと考えているので、今後も出来る限り参加したいと思います。
- ・ 栄養に関する講義は興味を持って聞け勉強になりました。美浜連携の会も21回と言う事で、更に発展をしていただける事を期待します。地域での仕組みを作る根幹となれる会だと思えます。より、それぞれの立場上の相互理解、地域で生活支援の為に少ない資源、それぞれの機関に求めたいものなど、より地域での支援に結びつけやすい組織作りが出来ればと思います。

(6) 「美浜区の活動団体を知ろう」

千葉市地域支え合い型訪問支援「安心サポートの会」～幸町

演者：幸町1丁目コミュニティ委員会会長
蟹江 将生氏

いきいき百歳体操を利用した通いの場づくり～磯辺

磯辺街づくり研究会
橘 衛氏

平成30年7月6日（金）18:30～20:30

参加者数 47名

医師3名 歯科衛生士1名 看護師3名 セラピスト6名 介護職5名
ケアマネジャー/MSW12名 行政6名 その他6名

【ねらい】

区内で活動されている団体から活動内容を発表してもらい情報共有する。専門職が資源を理解し、具体的に活用されることが期待される。



参加者の声（抜粋）

- ・ 高齢者の多い団地内で皆が協力して良い街づくりになっていると思った。
- ・ 少しずつ、積み上げて現在までの段階にまで作り上げていくことは、大変なエネルギーだったのではないかと思います。
- ・ 予防対策を町全体で行なっていて、素晴らしいと思った。
- ・ 地域活動の有効性と共に、人材不足による将来不安も同時に感じました。今後の取り組みは、より考えなければいけないと思いました。

- 月～金、いきいき百歳体操を通して、居場所づくりが定着し、それが人から人に伝えられ、参加者が増え、他の地域にも広がっており、さらに地域での需要を強く感じさせられました。
- 何が必要なのか、どうしたら良いか、全て行政がおかしいというのでは、前進（今後発展）しないのではないかと思います。
- 実際に運営が行われている「通いの場」の説明を伺ったのは、初めてでしたので、とても参考になりました。
- 地域資源を知ることができて良かったです。
- 地域の力を知ることができました。
- 民間の活動内容を把握できて良かった。柔軟な対応ができるのが良い。行政が、民間任せになりつつあるように感じた。世代間のズレがあるので、色々な世代と交流ができるとう良いのでは。
- 机上論ではなく、現場の生の声が聞けてとても良かった。蟹江さんのお話の中で「この時、立ち上げていなければ・・・」まだまだ我が事として捉えられていない住民の方が多い中で、いかにして現場の声を届けるかが、これからの住民主体の街づくりを進めていく上で重要になると感じた。

医師会・行政の関わりについて

医師会（在宅担当理事）、行政は、企画会議に参加し、テーマや会の開催方法について提案をした。

医師会（在宅担当理事）には、毎回の閉会の辞を担当し、多職種連携の PR を図った。

行政は、開催にあたり、場所の確保、会場設営、行政間での関係部署への周知、講師（消防・警察・市民団体）への登壇依頼を担当した。